

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.34



井上孝三郎 (1864-1945)

10月号は、旧芦野町で教員を務めた井上孝三郎を紹介します。

井上は、元治元年に寺宿村(岡郷)の浄法寺健蔵・みつの次男として生まれました。明治16年3月、茨城県小学初等科教員検定に合格すると、同年4月から、久慈郡楨野地小学校(茨城県大子町・現在閉校し「おやき学校」として校舎が活用されている)訓導となり、教師生活をスタートさせます。同18年に、交代寄合旗本芦野氏旧臣・井上男七郎の娘婿となり家督を相続すると、同20年から大田原尋常小学校、同21年10月からは芦野尋常小学校で勤務しました。井上が芦野尋常小学校に異動した年の12月には、現在の御殿山駐車場に同校の洋風校舎が新築され、新築記念として勝海舟の書「志在千里」等が寄贈されました。

明治36年3月、井上は16年務めた芦野尋常小学校を離れ

ると、富岡尋常小学校訓導兼校長として着任しました。(2代目校長)井上は富岡地区の住民との関係も良好で、同校

勤続15年の時には、富岡地区の住民から銀杯を贈られていま

す。大正9年、長年教育に従事したことをうけ勲八等瑞宝章を受章し、栃木県知事からは硯箱を贈呈されました。

翌10年には富岡地区の住民と協力して、現在の富岡自治公民館の地に小学校を新築移転させると、同12年に退職しました。退職後も昭和3年から

芦野町会議員を務めるなど、教育、政治の分野で長年芦野町を支えました。この功績を後世に伝えようと、昭和14年に富岡尋常小学校校舎敷地内に「謝恩碑」が建立され、現在もその石碑は遺され井上の功績を伝えています。

井上は人柄が温厚だったようで、「清らかに香る梅の花」のような人だったと称されています。また俳句が趣味で、蘆華吟社に属し、二松、江山樓、有三、戯柳などの俳号で活躍

しました。明治42年に刊行された『現今俳家人名辞書』には「春雨や古にし奈良の物静」が、大正3年刊行の『現代全国俳人名簿』には「猪突そが敗因となり歌かるた」が収録されています。

井上が行った明治・大正期の教育活動が、現在の那須町の教育の礎になっているといえるでしょう。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



「謝恩碑」建立時の記念写真

かつこう



気温が低くなり、大気中の湿度も下がり始める時期になった。秋特有の澄んだ空にところどころ広がる雲、その隙間を縫って、ぽぽまん丸の月がくつきりと浮かんだ。十五夜の9月17日、「中秋の名月」が夜空に輝く▼一年の中で月が最も美しく見える季節になった。十五夜のお月見は平安時代に貴族の娯楽として広まったという。その

後、江戸時代に入ってから庶民に広まり、秋の収穫祭とともに楽しんだといわれている▼現在でも私たちは、月や収穫物にちなんだものを食べたり、お供えしてお月見を楽しんでいる。丸い形をした団子は満月を連想させ、月に収穫の感謝を表す。稲穂に見立てたスキは災いなどから収穫物を守り、翌年の豊作を願う。芋や柿など旬の農作物をお供えし収穫に感謝する▼花瓶にスキを差し、皿に団子を並べ、竹ざるに芋を飾る。月

をバックに写真をパシャリと撮る。「うん、よし」美しい月を愛でる気持ち、収穫への感謝や翌年の豊作を祈願する気持ちは、長い月日が経った今も変わらず続いている▼お月見には十五夜のほかに「十三夜」があり、十五夜の次に美しい月だといわれている。リーン、リーンと聞こえてくる虫の音や涼やかな秋の風に包まれ、季節の移ろいを感じながら、ゆっくりと夜空を見上げてみよう。10月15日の「十三夜」を楽しみに待つ。

こんにちは

赤ちゃん



令和5年2月生まれ

さとう しゅうか
佐藤 柊花ちゃん

しゅうかちゃんは...
たくさん食べて元気に育ってね!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口

(9月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数 10,822 世帯 (+ 25)
・人口 23,796 人 (+ 8)
男 11,878 人 (+ 2)
女 11,918 人 (+ 6)

出生 6 人 (+ 4)
死亡 31 人 (- 7)
転入 78 人 (+ 1)
転出 45 人 (- 46)
その他 増減なし

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

